

山鹿市民医療センター

病院事業管理者 別府 透



「笑顔あふれる病院」 を目指して

令和四年四月に病院事業管理者を拝命し、本年度から昭和六十二年卒の石河隆敏院長と二人三脚で病院運営にあたっています。これまでに副院長と院長を各々三年間務めました。生まれは福岡県大牟田市で、今までで最も近い場所に勤務しています。昭和五十八年に熊本大学を卒業後に当時の熊本大学第二外科に入局し、赤木正信教授、小川道雄教授の薫陶を受けました。その後消化器外科に馬場秀夫教授をお迎えし、消化器外科の准教授、消化器癌集学的治療学講座 特任教授を経て、

当地に赴任しました。その間に延岡、天草、三角の地での勤務を経験しました。専門は一貫して肝胆膵外科、特に「肝がんの治療」であり、現在も後輩とともに診療にあたっています。

当センターは病床数二百一床の鹿本医療圏で唯一の急性期自治体病院で、地域災害拠点病院、救急告示病院、熊本県がん診療拠点病院、地域医療支援病院、臨床研修指定病院などの責務を担っています。さらには第二種感染症指定医療機関として、新型コロナウイルス診療に従事しています。幾度かの圏域内施設や自院でのクラスターの発生を経験しましたが、調整本部の皆さま、鹿本医師会や他医療圏の先生方、保健所の皆さま、などのご協力で何とか乗り越えることが出来ました。現在は五月に予定されている第二種感染症から第五種感染症への引き下げの準備を行っています。

病院の活性化には人事交流が重要と

考えています。その一環として、熊本赤十字病院から松本和美 副看護部長をお招きしました。福島大志 社会福祉士が熊本医療センターでの研修から戻り、「がん対策支援室」に主任として着任しました。さらに昨年十月から熊本大学との間で看護職キャリア支援事業に伴う、看護師の相互派遣を開始しています。

来年に迫った働き方改革の実行に備えて、医師業務のタスクシフトを進めています。幸い当センターは熊本県医療勤務環境改善センターからの特別支援施設に認定されました。タスクシフトの推進のために二名の看護師が特定行為の研修中です。一方当センターにも看護師不足の波が押し寄せています。看護師数の増加のための努力に加えて、看護師業務の他職種へのシフトを積極的に進めています。

「がん診療」、「高齢者医療」、「予防医療」を三本の柱として、病院の活性化に取り組み、さらなる発展を目指しています。そのためには、「笑顔あふれる病院」であることが必須条件です。患者さんの病気が治って笑顔、苦痛がとれて笑顔、職員が笑顔で挨拶、笑顔で仕事、などがキーワードです。

今年の九月八日、九日には第四十二回 Microwave Surgery 研究会と市民公開講座 「山鹿でできる肝がんの予防と治療」 を山鹿市で開催します。出席いただければ幸いです。今後とも肥後医育振興会の皆さま方にはご指導のほど、よろしくお願いいたします。

